

新規事業採択時評価結果(平成20年度新規事業化箇所)

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業の概要

事業名	一般国道 153 号 豊田北バイパス(1 工区)	事業区分	一般国道	事業区分	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自:愛知県豊田市逢妻町 至:愛知県豊田市上原町	延長	2.8km		
事業概要	<p>一般国道 153 号は、愛知県名古屋市区を起点とし、豊田市、長野県飯田市等を経て長野県塩尻市中町に至る延長約 220km の幹線道路であり、名古屋都市圏と長野県中南信地域とを結ぶ重要な路線である。豊田北バイパスは、「豊田北環状」の一部を構成し、現道 153 号の交通混雑緩和、交通安全確保及び沿道環境改善等を目的とした、愛知県豊田市逢妻町から愛知県豊田市勘八町に至る延長 6.8km の幹線道路である。</p>				
事業目的、必要性	<p>豊田北バイパスは、豊田市のトヨタ自動車を中心とした工業都市圏の急激な発展により、豊田市市街地の交通渋滞緩和、交通安全確保、ならびに東海環状自動車道豊田勘八インターへのアクセス道路として、また国道 155 号豊田南バイパスを利用して東名・第 2 東名インターへのアクセス道路として地域間交流及び地域経済の活性化に大きく寄与する。また、当該バイパスは豊田市市街地を中心とする外環状道路の一部を形成し、豊田市市街地を中心に形成される放射状道路の混雑解消、現国道 153 号(緊急輸送道路)渡河部の代替ルートの確保に大きく寄与するものである。</p>				
全体事業費	147億円	計画交通量	32,600台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見

豊田北バイパスは、豊田市市街地の外環状道路を形成し、中心市街地への集中交通を分散・迂回させるとともに東海環状自動車道豊田勘八インターへのアクセス機能を果たすことが期待されており、「豊田市幹線道路整備促進協議会(会長：豊田市長)」から早期整備の要望(平成 19 年 5 月 31 日、11 月 13 日)を受けている他、多くの団体から同様の要望を受けている。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている
手続きの完了：都市計画決定済(平成3年3月4日)

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.8	総費用 117億円 事業費: 106億 維持管理費: 10億	総便益 440億円 経時経縮便益: 437億円 経費用減便益: 1.1億円 交通増減便益: 1.6億円	基準年 平成 19 年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C = 3.1(交通量 -10%)	B/C = 6.2(交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C = 3.5(事業費 +10%)	B/C = 4.2(事業費 -10%)		
事業期間変動	B/C = 4.1(事業期間 -20%)	B/C = 3.4(事業期間 +20%)				
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	事業実施により当該区間の渋滞を解消する。 【渋滞損失時間の改善】約 6,751 万人時/年 ⇒ 約 6,704 万人時/年 【1kmあたり渋滞損失時間】約 45.4 万人時/年km (現況) 【愛知県平均】:約 4.9 万人時/年km (約 9.3 倍) 【全国平均】:約 2.0 万人時/年km (約 22.7 倍) 【渋滞度曲線】愛知県センサス区間の上位1割に含まれる 【その他の特徴】環状道路形成により豊田市中心部の交通負荷を軽減する		
		事故対策	○	現道からバイパスへの交通転換を図り、現道の交通事故を削減する事業である 【死傷事故率】約 937.5 件/億台キロ(現況) (死傷事故率比(県内平均比 6.7(現況)) 【愛知県平均】:約 138.9 件/億台キロ 【全国平均】:約 115.3 件/億台キロ 【事故率曲線】愛知県センサス区間の上位 5%に含まれる(ITARDA 区間) 【その他の特徴】環状道路形成により豊田市中心部を通過する交通量が減少し、交通事故の削減に寄与する。		
	歩行空間	—				
	社会全体への影響	住民生活	○	【医療施設：豊田厚生病院へのアクセス向上】 現道利用時と比べ所要時間を約 5 割短縮 (豊田厚生病院～高橋地区 19 分→10 分)		
		地域経済	○	【環状ルートによるアクセス向上】 豊田市中心部を迂回する環状ルートを活用することにより、物流効率化を支援することが可能である。(広瀬工場～堤工場間において約 5 割の短縮 60 分→30 分)		
災害		○	【緊急輸送道路の機能向上】 緊急輸送道路：国道 153 号の老朽橋(平戸橋)の代替ルートを確保			
環境		○	【沿道環境の改善】 CO2 排出削減量：約 1897t-CO2/年 (約 5%削減) NOx 排出削減量：約 3.9t-NOx/年 (約 26%削減) SPM 排出削減量：約 0.4t-SPM/年 (約 26%削減)			
地域社会	○	【主要な観光地へのアクセス向上】 香嵐渓(年間利用者 150 万人/年)等の観光地への支援(豊田市街地を未通過)				
事業実施環境	○	豊田市幹線道路整備計画(H17年度～10年間)の支援道路(渋滞解消)として位置づけ				

採択の理由

費用便益比が 3.8 と、便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
また、当該事業箇所近傍の現況渋滞損失時間の発生状況から渋滞対策の必要性は高く、当該事業実施による環状道路形成による渋滞緩和効果は高いと判断できる。
以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。